



06 インパクト害虫レスQ

IMPACT GAICHUU LESS Q

安全データシート〈SDS〉兼 GHS分類シート

目次 / TABLE OF CONTENTS

① 化学品及び会社情報	⑦ 暴露防止及び保護措置	⑬ 廃棄上の注意
② 危険性・有害性の要約	⑧ 取扱い及び保管上の注意	⑭ 輸送上の注意
③ 組成・成分情報	⑨ 物理的及び化学的性質	⑮ 適用法令
④ 応急処置	⑩ 安定性及び反応性	⑯ その他の情報
⑤ 火災時の処理 応急処置	⑪ 有害性情報	
⑥ 漏出時の処置	⑫ 環境影響情報	

① 製品及び会社情報

製品名	: インパクト害虫レスQ (IMPACT GAICHUU LESS Q)
製品コード	: IMP-GLS-200
JANコード	: 4570078480029
容/形態	: 200mL / ガンスプレータイプ
製品の推奨用途	: 害虫忌避
使用上の制限	: 用途以外に使用しないこと
販売者	: PROUP株式会社
住所	: 新潟県新潟市中央区西大畑町617-2
TEL	: 025-290-7704
FAX	: 025-290-7794
緊急連絡先	: info@proup-impact.co.jp 025-290-7704

2 危険性・有害性の要約

GHS分類

危険有害性クラス	区分
物理化学的危険性（可燃性等）	区分外（不燃性液体）
急性毒性（経口・経皮）	区分外
皮膚腐食性／刺激性	データなし（分類できない）
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	データなし（分類できない）
水生環境有害性（短期・長期）	データなし（分類できない）
その他	分類対象外・区分外・分類できない

ラベル要素

絵表示（ピクトグラム）	該当なし
注意喚起語	該当なし
危険有害性情報	該当なし（その他の有害性物質）

注意書き

【安全対策】

- 取扱い後はよく手を洗うこと
- ミストを吸入しないこと
- 屋内で使用する際は換気をよくして使用すること
- 子供の手の届かないところに保管すること

【応急処置】

- 皮膚に付着した場合：付着物を拭き取り、石鹸と大量の水で洗い流すこと
- 眼に入った場合：水で15分以上洗浄。コンタクトレンズは外して洗浄継続
- 吸入した場合：新鮮な空気のある場所に移動し休息。気分が悪い場合は医師に連絡
- 飲み込んだ場合：口をすすぐ。無理に吐かせず、直ちに医師に連絡すること

3 組成・成分情報

化学品の区分	混合物
化学名／一般名	害虫忌避剤（水性製剤）

成分及び含有量

成分名	含有量	CAS番号
ピレスロイド系化合物	0.5 % 以下	—
界面活性剤	数 % 程度	—
純粋水（溶媒）	残部	—

※ 詳細な化学物質名及びCAS番号は営業秘密保持の観点から省略。必要な場合は供給元に照会のこと。

4 応急処置

吸入した場合	直ちに作業を中止し、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い場合は医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	付着物を布で拭き取り、直ちに石鹸で洗い、大量の水で洗い流すこと。異常がある時は医師の診断を受けること。
眼に入った場合	水で15分以上洗浄すること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。
応急措置を行う者の保護	救助者は必要に応じて保護手袋・保護眼鏡等を着用すること。

5 火災時の処理

消火剤	本製品は不燃性である。
使用可能な消火剤	粉末、二酸化炭素、水、泡、一般の消火剤が使用できる。
使用してはならない消火剤	特になし。
特有の危険有害性	加熱により有害な蒸気を発生するおそれがある。
特有の消火方法	関係者以外は安全な場所に退避させ、周囲の状況に応じた消火方法をとる。
消火を行う者の保護	空気呼吸器、保護衣、保護手袋、保護眼鏡等を着用する。

6 漏出時の処置

人体に対する注意事項・保護具・緊急時措置	関係者以外の立入りを禁止する。作業者は適切な保護具（保護手袋・保護眼鏡・保護衣等）を着用すること。
環境に対する注意事項	雨水溝、河川、海等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意すること。
封じ込め及び浄化の方法	少量の場合：布・紙・ウエス等で拭き取る。多量の場合：土砂・おがくず等で吸収し、容器に回収する。
二次災害の防止策	漏出場所付近での火気使用を禁止する。付着物・廃棄物は法令に基づいて処理すること。

7 暴露防止及び保護処置

管理濃度	設定されていない
許容濃度（日本産業衛生学会）	設定されていない
TLV-TWA（ACGIH）	設定されていない

設備対策

- ミストや蒸気が滞留しないように局所排気装置又は全体換気装置を設置すること。
- 取扱い場所の近くには洗眼や身体洗浄の為のシャワー等の設備を設けること。

保護具

呼吸用保護具	必要に応じて防じんマスクを着用
手の保護具	ゴム手袋（ニトリル製等）を着用
眼の保護具	保護眼鏡またはゴーグルを着用
皮膚及び身体の保護具	保護衣、ゴム長靴等
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。作業中は飲食・喫煙をしないこと。

8 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 購入後1年以内に使用すること。開栓後はなるべく早く使い切ること。
- 屋内で使用する際は換気を良くすること。
- 密栓時は液垂れを起こさぬよう、しっかりキャップを閉めること。
- 他の薬剤、洗剤と絶対に混ぜないこと。
- 誤飲等の事故の恐れがあるため、飲料用ボトル等他の容器に小分けしないこと。
- 用途以外に使用しないこと。
- 使用中は飲食・喫煙をしないこと。

保管

- 容器を密閉し、直射日光を避け、冷暗所に保管すること。
- 子供の手の届かないところに保管すること。
- 使用した余りの液や、汚れ・水の混入がある場合は保管できない。
- 食品・飼料と区別して保管すること。

接触回避

9 物理的及び化学的性質

物理的状態	液体
色	淡黄色透明
臭い	僅かな特異臭
pH	約 6.0
密度(20℃)	約 1.00 g/cm ³

物理的及び化学的性質（ 続き ）

融点／凝固点	データなし
沸点	データなし（ 水系のため約100℃と 推定）
引火点	なし（ 不燃性）
自然発火温度	データなし
燃焼性	なし
爆発下限界／上限界	データなし
蒸気圧	データなし
溶解度	水に可溶
n-オクタノール／水分配係数	データなし
粘度	データなし

10 安定性及び反応性

反応性	通常の手扱い条件においては安定である。
化学的安定性	通常の手扱い条件においては安定である。
危険有害反応の可能性	通常の手扱い条件下では危険有害な反応は起こらない。
避けるべき条件	直射日光、高温、凍結。
混触危険物質	強酸化剤、強塩基。
危険有害な分解生成物	通常の使用条件下では該当なし。

11 有害性情報

急性毒性（混合物として推定）

経路	推定値	GHS区分
経口（ラット LD50）	>10,000 mg/kg（原材料から算出）	区分外
経皮（ラット LD50）	>2,000 mg/kg（原材料から算出）	区分外
吸入	データなし	分類できない

その他の有害性

- 皮膚腐食性／刺激性：データなし
- 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性：データなし
- 呼吸器感作性・皮膚感作性：データなし
- 生殖細胞変異原性・発がん性・生殖毒性：データなし
- 特定標的臓器毒性（単回・反復ばく露）・誤えん有害性：データなし
- 水生環境有害性（急性・慢性）：データなし

12 境影響情報

- 生態毒性：データなし
- 残留性・分解性：データなし
- 生体蓄積性：データなし
- 土壤中の移動性：データなし
- その他：河川・湖沼・海洋への直接排出は避けること。

13 廃棄上の注意

残余廃棄物	「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び関連法規に従って処理すること。河川・湖沼・下水道等には流さないこと。都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約し処理すること。
汚染容器及び包装	容器は内容物を完全に除去し、法規に従い廃棄するか、資源リサイクルを行うこと。空容器を廃棄する場合は環境への影響を避けること。

14 輸送上の注意

国際規制

国連番号 (UN No.)	該当なし (非危険物)
国連分類 (UN Class)	該当なし
容器等級 (Packing Group)	該当なし
海洋汚染物質	該当しない

国内規制

陸上輸送	規制なし
海上輸送	船舶安全法等の定めに従う
航空輸送	航空法等の定めに従う

輸送時の特別安全対策

- 直射日光を避け、高温・凍結を防止して輸送すること。
- 荷崩れ、転倒、落下、破損等がないように積載し、確実に固定すること。
- 飲食物、飼料と区別して輸送すること。

15 適用法令

法令名	該当状況
労働安全衛生法	該当なし（表示・通知対象物質に該当せず）
PRTR法（化学物質排出把握管理促進法）	第1種指定化学物質（ピレスロイド系化合物）
化学物質審査規制法（化審法）	該当なし
毒物及び劇物取締法	該当なし
消防法	該当なし（不燃性）
船舶安全法	該当なし
航空法	該当なし
海洋汚染防止法	該当なし
大気汚染防止法	該当なし
水質汚濁防止法	該当なし
農薬取締法	該当なし（本製品は忌避剤であり農薬ではない）

16 その他の情報

引用文献

- 厚生労働省「化学物質のSDS作成マニュアル」
- JIS Z 7252:2019、JIS Z 7253:2019
- 独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）化学物質総合情報提供システム
- 日本産業衛生学会「許容濃度等の勧告」

記載事項の取扱い

【ご使用上のお願い】

- 本SDSに記載した内容は、現在入手できる資料、データ、情報に基づいて作成しており、いかなる保証をなすものではない
- 記載の注意事項は通常の取扱いを対象としており、特殊な取扱いには適した安全対策を実施のうえご使用ください
- 本製品を他社原料と混合または他の用途に使用した場合、本SDSは適用されない
- 本SDSはJIS Z 7253:2019に準拠